

分野: vocabulary, language testing

JACET8000に基づく音声版語彙サイズテストの有効性:
文字版語彙サイズテストとの比較

Usefulness of Aural Vocabulary Size Test Based on JACET 8000:
The comparison Between Aural and Written Formats

水本 篤 (大阪工業大学非常勤)

島本 たい子 (関西外国語大学短期大学部)

宮野 智靖 (関西外国語大学短期大学部)

1. 研究の目的

近年、語彙研究の発展に伴い様々な語彙サイズテストが開発されている (eg., Meara, 1987; Nation, 1990; Schmitt *et al.*, 2001; 望月, 1998; 佐藤他, 2005) が、それぞれ基になる語彙リストやテスト形式、また単語の換算法 (word family か lemma 換算か) や語彙サイズの算出法などが異なるため結果の比較が難しいというのが現状であり、スタンダード化された語彙サイズテストの開発が待たれる。一方、語彙力と読解力は相関が高いことはよく知られているが、既存の語彙サイズテストは、ほとんどが文字提示によるものであり、リスニング力との関係などはあまり検証されていない (吉村他, 2005)。実際、学習者の中には単語のつづりを見れば意味が理解できても、発音を聞いただけでは意味の分からない語がかなりあることも予想される。本研究では、音声提示された単語の意味を理解しているかをテストする音声版語彙サイズテストを開発し、従来の文字提示による語彙サイズテストと比べて、どのような違いがあるのかを検証することを目的とする。

2. 研究の方法

2.1 被験者 関西の私立大学および短大生 計 332 名

2.2 使用テストとアンケート調査

(1) 音声提示による語彙サイズテストの開発

JACET8000 の各 8 レベルから名詞、形容詞、動詞、副詞をそこでの品詞の割合に基づき、20 語づつ無作為抽出し、合計 160 語 (20 語×8 レベル) を目標語とする 4 択方式の音声刺激による語彙サイズテストを作成した。テスト形式は、音声提示によるテストであるため、帰り読みができないことなどを考慮し、複雑な形式のものは避け、かつテストでカバーできる単語数をできるだけ増やす目的で、目標語の日本語訳が与えられており、それに適する英単語を CD から聞こえてくる 4 つの単語の選択肢の中から選ぶこととした (例参照、A~D は CD からの音声提示のみ)。目標語の語義は辞書の第 1、第 2 くらいまで提示した。音声刺激には発音のクリアな米国人男性の生の声をデジタル録音し使用した。

<例> 1. 静かな, 穏やかな (A) successful (B) quiet (C) strange (D) true

(2) 文字提示による語彙サイズテスト

目標語および選択肢は音声版テストと同じ単語を使用するが、提示方法は従来の文字提示となる。形式も音声版と同様の 4 択方式で被験者は目標語の日本語訳に適する英単語を 4 つの選択肢から選びマークシートに印をつける。

(3) TOEIC スコア

音声版、文字版の両テストを受験した被験者の中で TOEIC を受験した学生 (計 211 名) につき TOEIC の総合点、リスニング、リーディング各パートの得点を相関分析に利用した。

(4) 語彙学習ストラテジー・アンケート調査

9月10日（日） 研究発表4 第1室（2103）

被験者の語彙学習方法の違いがどのように音声版、文字版語彙サイズテストの結果に関係しているかを調べるために、被験者に語彙学習ストラテジー・アンケート調査を行った。特に、語彙学習に音声面の学習を取り入れているかどうかを問う5項目の質問に5段階（「まったく当てはまらない」から「よく当てはまる」まで）で答えてもらう形式。

2.3 手順

パイロットテスト実施後、本実験として平成17年12月初旬～中旬にかけ（1）音声版語彙サイズテストを実施した。その際、問題用紙、解答用紙はすべて回収した。続いて約一ヶ月後に（2）文字版語彙サイズテストと（4）アンケート調査を実施した。（3）TOEICは、12月初旬にIPを学内受験、それ以外の者は最近受験したTOEICの点数を自己申告させた。

3. 結果

テスト全体の信頼性については音声版（ $\alpha=.93$ ）、文字版（ $\alpha=.94$ ）共に高い信頼係数を示した。表1は各テストの平均値と標準偏差を表している。また被験者の推定語彙サイズを $\text{得点} \div 160 \times 8000 = \text{推定語彙サイズ}$ の計算式により算出した結果、平均値が音声版では約5511語、文字版では約5877語と推定された。文字版の方が360語程語彙サイズが大きいことが分かった。図1は音声版、文字版の各レベル毎の平均値を示している。t検定の結果 $p<.01$ で総合点および各レベル毎に平均値に有意差が認められた。表2は各テスト間の相関係数を示す。音声版、文字版ともにTOEIC総合および各パートとも高い相関を示した。また、わずかではあるが、音声版はリスニングパートと文字版はリーディングパートとの相関が高い。アンケート調査および他の結果の詳細と考察については発表時に行う。

表1 基礎統計量

	平均値	標準偏差	N
TOEIC	473.03	127.905	211
TOEIC Listening	276.30	74.829	200
TOEIC Reading	195.95	68.533	200
Aural 合計点	110.22	18.092	332
Written 合計点	117.55	18.355	332

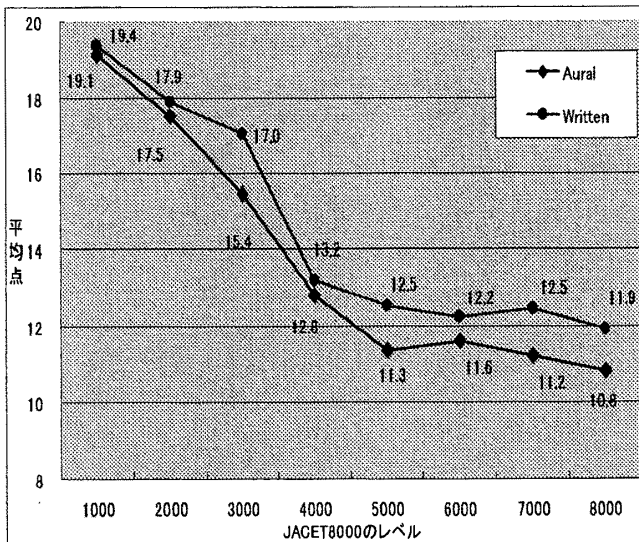


図1 音声版、文字版の各レベル毎の平均値

表2 相関係数行列

	TOEIC	TOEIC Listening	TOEIC Reading	Aural 合計点	Written 合計点
TOEIC	1.00				
TOEIC Listening	.93	1.00			
TOEIC Reading	.92	.73	1.00		
Aural 合計点	.69	.56	.65	1.00	
Written 合計点	.69	.53	.68	.89	1.00